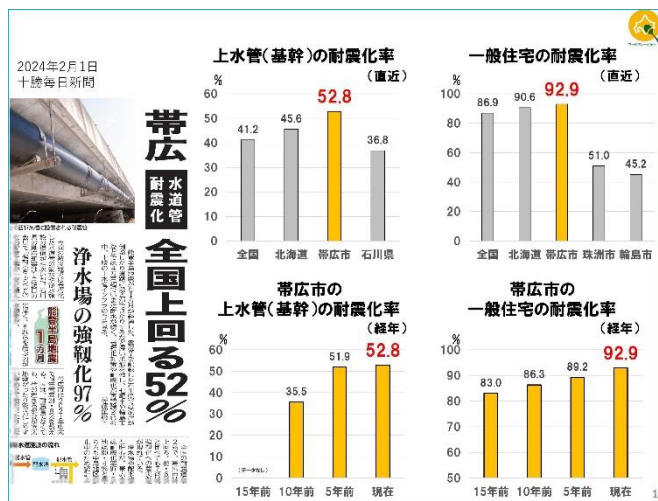


【米沢のりひさ連合後援会総会】

2024.2.20 とがち館

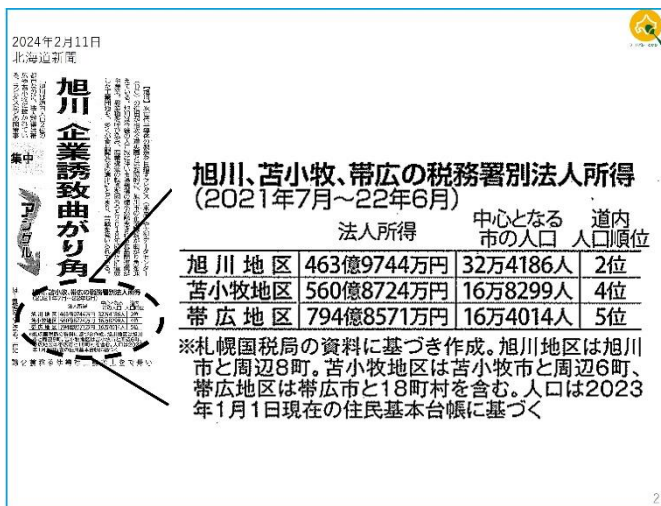
～市長講演要旨～

皆さんこんばんは。今日は本当に足元の悪い中、夜分にお出でいただきありがとうございます。後援会の総会ということで、日頃の私の仕事を支えていただいている、その核になる皆様がお揃いいただいているという事を改めて感じています。今、四期目を迎えさせていただいております、その折り返しがこの春にやってきます。振り返りますと、私が市長になった年、6月に初めての予算編成がありました。その時、帯広市は、1400億円強の予算規模でありまして、その内の800億円位が一般会計、特別会計がその残りという形でした。千何百億円という数字は自分で縁のある数字でした。私が就職したのはIHI、石川島播磨重工業という会社でありまして、その時最初にアルジェリアで仕事が取れて2年ほど単身赴任をしておりました。その時、伊藤忠とIHI石川島播磨重工業の合併で取ったLPGプラント建設工事の契約金額が1400億円で、帯広市の予算規模と一緒でした。帯広市長になったときに、1400億円はどこかで見たことのある数字だなと思ったのが最初でした。その後、野村証券系のベンチャーキャピタルでありますジャフコ、日本合同ファイナンスという会社に入りました。合同というのは野村証券と三和銀行と日本生命が合併で作った会社です。その会社で、運用していた資金が大体1400億円でした。私がジャフコを去るにあたり最後の仕事として資金調達をしたときのファンドの金額も1400億円でした。ですから、この1400億円という数字は私にとって印象的な数字だったわけですが、それだけ財政規模の市長になったという事で、勢い込んで最初の予算編成で、骨格予算はもうできていましたが、残り政策予算というのをやらせていただいただけという事で、私が「いくら使えるの」と聞くと「1億円です」と言われた時には、後にのけぞって倒れそうになった記憶があります。その1億円を何に使ったかと言いますと、小学校と中学校の体育館の耐震化でした。子供が学校に行っている間に地震があり、体育館が壊れてしまったらどうしようと思いました。1億円で市内の耐震化が終わっていなかった体育館を全部できるという話になり、細かいことは言わず全部それに使ったのが、市長になって最初の予算の時です。



お手元に資料があると思います。2月1日の新聞記事です。今年の1月1日の能登の地震の後、調べてみた数字が右側にあります。水道の耐震化率はどうなっているのかという事で、全国で上水管(基幹)の耐震化率は半分もいってないのです。皆さん驚かれるのではないのでしょうか。北海道45.6%、帯広市は52.8%。まだこんなに残っています。でも、石川県36.8%です。これは、色々な歴史、事情があってこうなっていると思いますが、

先ほど言いましたが、市長になってから地震の事がずっと気になっていましたから、予算は削れなかった部分です。データとして15年前は無いですが、10年前の段階で35.5%でありました。5年前で51.9%、今52.8%まで積んでくる事が出来ました。これを来年までに全部終わらせるのはとてもじゃないお話ですが、時間は少しずつかかりますが、着実に帯広市の上水道の耐震は進んでおります。そして進んでいる状況は上のグラフにあります、北海道や全国の平均よりも上だという事をご案内しました。その右は、一般住宅の耐震化率。これは、皆さんにさせていただかなければならない事ですが、補助制度等々を作りながら進めてきています。これも帯広市では92.9%で、いずれも、全国、北海道よりも上です。決して、能登が悪いと言っているわけではありませんが、色んな事情があってやはり能登は51%とか45.2%だという事です。ただ、震度7が来たらどうなるかわかりませんが、行政で一番嫌なのはここだと思います。わかっているけれども、時間とお金がかかってできない事が色々あり、そういう間に災害があり、市民の皆さん、国民の皆さんが悲しい思いをするのを目撃するのは断腸の思いになるのではないかと。これからもしっかりやっていきます。先ほどの経年変化、帯広市の一般住宅の耐震化率、市民の皆さんのご協力もいただいて、今92.9%まできています。そういう面では、帯広市は頑張っているとご理解いただけると有難いです。



2024年2月11日
北海道新聞

旭川、苦小牧、帯広の税務署別法人所得
(2021年7月～22年6月)

	法人所得	中心となる市の人口	道内人口順位
旭川地区	463億9744万円	32万4186人	2位
苦小牧地区	560億8724万円	16万8299人	4位
帯広地区	794億8571万円	16万4014人	5位

※札幌国税局の資料に基づき作成。旭川地区は旭川市と周辺8町。苦小牧地区は苦小牧市と周辺6町。帯広地区は帯広市と18町村を含む。人口は2023年1月1日現在の住民基本台帳に基づく。

次のページをご覧ください。2月11日の新聞記事です。「旭川 企業誘致曲がり角」という記事が出ておりました。法人所得、会社の所得です。私が『フードバレーとかち』ですって言った何本かの柱があります。人口が減っていくのだから税収が減っていく。でも地方で税収を何とか維持しようと思ったら、人口は簡単に増えませんが、法人は作ってけるし法人はひとりでもいくつでも作れる。大きな会社ではなくても10人ぐら

いの会社が100個あったら、100人の会社を1個作るのとどっちがいいだろう。こういう事をずっと話してきました。『フードバレーとかち』というのは、食と農、一次産業を中心として新しい仕事をここ十勝に作っていこうよと言うのが、『フードバレーとかち』の旗の真ん中です。法人所得の欄を見て下さい。旭川地区463億円、苦小牧地区560億円、帯広地区794億円。皆さん一見目を疑いませんか。中心となる市の人口、旭川市は帯広市の倍。苦小牧市はほぼ一緒です。人口順位で見ると帯広市は5位です。これを見た瞬間に「おおっ」と思いました。やっぱり帯広市は農業中心だ。農業が強い。農業法人も入ります。そういうことから考えていくと旭川というのは支店経済です。この周辺にもそういうのはたくさんありますが、全国区の会社がいくら出てきても、税金は本社にもっていかれてしまう。本店所在地のところにメインの税金はいきます。帯広には旭川と比較して農業法人も含めて、帯広にベースを持っている会社が多いという事です。冒頭でお話ししました。私はそういう形の仕事を造っていかねばならないのではないかと。小さな会社であってもここに仕事があって、ここで収益があって、ここで従業員を雇っていく。そういうのを作っていかないと地方は疲

弊していってしまう。東京に本社がある会社をいっぱいここに誘致をしてきても、少なくとも法人所得の面でいうとあまり影響はないです。雇用は生まれますけど。ですから、イトーヨーカ堂ですとかいろんな会社のお話を伺っていて思うのは、あれだけ大きな会社になってしまうと株主からのプレッシャーで収益率が落ちてくると、店を閉めてしまうのです。帯広市で見たら、50 億円も売り上げがあるような会社なのになぜ閉めなければならないのかと思います。イトーヨーカ堂のマネージメント、経営者から見たら、だからという話になります。いくらお金を使っていくら稼いでいるかという事を株主に説明しなければならない。そうすると利益率の低い商売、仕事は辞められてしまう。そういうことを考えると、私は十勝・帯広の強さは、ここに経営資源があって、そして日本で有数の所謂農業という食に関係したもので、それについて競争力を持つ仕事があるからというのはとても大きな事です。農業土木という仕事は、たくさんのお金がここに入っていると思います。私もこの仕事をしてから、国の方にいろいろお願いをしに行き、例えば、農業のかんがい工事をするとなると 10 年間で百何十億円かかるような予算をもってこなければならない。考えてみるとそのくらいのオーダーの仕事が、今年予算がついたよということから来年から 10 年間毎年その部分だけで 15 億円の工事が続く、特異な場所だと思います。ですから、そういう投資がたくさん行われている場所に私たちはいるのだと考えていただけたらと思いこの資料を出しました。人口の話ですが、ここは減りが一番少ないと言われています。これから先 2045 年、2050 年頃には苫小牧市を抜くのではないかとされていますが、土地の値段と人口と税収とこの 3 つが基本、その地域の強さを表します。この 3 つが減り始めると大変ですが、北海道の中でも、ニセコと札幌地域を除いて土地の値段が上がっているのは帯広圏だけです。そういう面では固定資産税の収入もそれなりに将来的にあまり悲観しないでいられるし、人口の減り方も少ない。今見ていただいたように、法人所得もそれなりの、これは札幌と同じくらいあります。金額は札幌のほうが大きいですが、人口で割ったら、実はこの法人所得は札幌と同じくらいあります。この金額になるのは札幌と帯広だけです。今日皆さんに申し上げたいのは、ここは面白い場所です。これから私はあと 2 年の期間をいただきますが、ここに残って生きることによってチャンスがたくさんある、夢があるという事を皆さんに分かっていただけるようにしていきたいと思っています。私は元金融機関にいましたし、メーカーにも、民間にいました。帯広市に来て先ほど 1400 億円のお話をしましたが、帯広市が持っている資産といえますか財産が、将来も価値を生むような財産にしておかなければならない。もしかしたら 10 年後には古くなって、価値を生まない、お金を生まないような財産なら、取り換えていかなければならない。そういうことを私はしていかなければならないと思います。

借金は減らせるときに減らしておこうと思いました。市債、市の借金の残高も意識して減らしてきています。それはその間、必要な投資はしてこなければならない。これ以上借金できないくらい借金で膨らんでいました。設備投資などいろいろありましたから。平成 27 年の帯広市の市債残高は 952 億円ありました。令和 6 年には 685 億円になります。皆さんに随分我慢していただいている部分がありますが、借金の額はある程度のレベルまでもっていかなければならないと思います。財政調整基金というのがありますが、毎年の決算の中で、ある程度の自由があって使えるお金です。平成 25 年の数字が手元にありますが、12 億円です。その後、先ほどの借金がたくさんあったので、一番低い時で 5 億 3900 万円です。この

位しかなくて、除雪を二回すると消えてしまうお金です。令和6年には約40億円まで戻しました。行政といいますが自治体の財政というのは違うところがありますが、今日の皆さんはほとんど民間の方なのでお分かりになるとと思いますが、借金が少なくなってきました。手元で使える流動性のある資金もある程度のレベルまでもってきました。これをここまでもってこないといけないので、これからの残り2年いただいていますので、私としてはここからの2年は、今まで皆さんに我慢していただいた部分を含めて、しっかりと入れるべきところには入れるという事をしていきたいと思っています。

令和6年度予算 主要な施策 ~ あおあおひろびろいさいき 未来を信じる 帯広 ~

01 ともに支え合い、子どもも大人も確やかに暮らせるまち

- 準備段階で支障給付金の給付 (190,629千円)
- 児童福祉の整備高質化や学校給食改善等の影響を受けた子育て世帯に対する支援 (502,939千円)
- 障害者自立生活費用給付事業の拡充 (58,327千円)
- 妊婦画科健診助産費の増額 (2,948千円)
- 児童ICTシステムの導入 (13,349千円)
- 私立保育所(園)への入居支援 (2,483,752千円)
- 児童扶養手当の拡充 (849,485千円)

● 子ども医療費助成制度の拡充 (動対象を1学年まで拡充等)

● 妊婦画科健診助産費の増額

● 児童ICTシステムのイメージ

02 活力にざわいと挑戦があるまち

- 消防団詰所・農業センター複合化施設 (403,624千円)
- 森林整備促進事業 (38,896千円)
- 児童が利用する施設に地域材を使用した木製遊具を設置等 (53,402千円)
- フード(バー)とから産物の推進 (7,273千円)
- アドベンチャー・ツーリズムの推進 (2,500千円)
- 海外観光客誘致に向けたツアーの造成等

● とち帯広空港の整備 [一部3月補正] 誘導施設改修工事等 (873,000千円)

● 移住の促進 従来の就業企業による移住支援、東京23区企業にテレワークで働きながら帯広市に移住した方への補助を拡充

● アドベンチャー・ツーリズムの様子

03 ともに学び、働く人を育むまち

- 学校施設の長寿命化 (371,553千円)
- 保育園内の園路整備 (19,950千円)
- 総合型地域スポーツクラブに対する運営員の補助 (200千円)
- 職員の研修強化 (171,580千円)
- 職員の研修強化 (171,580千円)
- 職員の研修強化 (171,580千円)
- 職員の研修強化 (171,580千円)

● 保育園内の園路整備

● 総合型地域スポーツクラブに対する運営員の補助

● 職員の研修強化

● 職員の研修強化

● 職員の研修強化

● 職員の研修強化

04 安全・安心で快適に暮らせるまち

- 消防団詰所・農業センター複合化施設 (403,624千円)
- 森林整備促進事業 (38,896千円)
- 児童が利用する施設に地域材を使用した木製遊具を設置等 (53,402千円)
- フード(バー)とから産物の推進 (7,273千円)
- アドベンチャー・ツーリズムの推進 (2,500千円)
- 海外観光客誘致に向けたツアーの造成等

● 消防団詰所・農業センター複合化施設

● 森林整備促進事業

● 児童が利用する施設に地域材を使用した木製遊具を設置等

● フード(バー)とから産物の推進

● アドベンチャー・ツーリズムの推進

● 海外観光客誘致に向けたツアーの造成等

05 多様な主体が活躍する地域社会の形成・自治体経営の推進

- 大空会館の移転改修に向けた設計 (8,344千円)
- 行政情報システムの改修 (11,645千円)
- 周知する自治体標準事業システムへの移行等 (15,171千円)
- 住民票など証明書の発行にマイナンバーカードを用いたオンライン申請及び電子決済導入の拡充 (24,798千円)
- 緑地都市との周年事業 (1,500千円)
- 徳島市産業文化(前編)都市緑化10周年記念事業 (2,765,807千円)
- 帯広市公民館施設等整備基金助成金の創設 (2,765,807千円)

● 大空会館の移転改修に向けた設計

● 行政情報システムの改修

● 周知する自治体標準事業システムへの移行等

● 住民票など証明書の発行にマイナンバーカードを用いたオンライン申請及び電子決済導入の拡充

● 緑地都市との周年事業

● 徳島市産業文化(前編)都市緑化10周年記念事業

● 帯広市公民館施設等整備基金助成金の創設

● 緑地都市との周年事業(前編の様子)

今日の資料の3枚目に、今回(2月16日)発表した予算の説明があります。今やるのが一番効率的だなというのが、随分お金を入れたかなと思います。それから、今できるようになったといいますが、色んな技術が発展してきた、デジタル化とかそういう中で、今やったほうが良いというものにお金を入れるように、意識して出しました。

最後に一つ、市制執行方針です。今朝の庁議で決定しました。28日から始まる議会で読み上げるのですが、今日は読みませんが、ホームページや新聞で是非読んでください。

(<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/shisei/mayor/1001489.htm>)

今お話したことも含めて書きました。結びのところに、私が気になった言葉とか引用するのですが、今回も引用しておりますのでそれだけご紹介します。アメリカの芸術家でアンディ・ウォーホルという方がいます。マリリン・モンローのポスターなどで非常に有名な人ですが、彼が色んなことを言っています。私が一番気に入っている言葉を今回の議会の結びに引用します。「成功する秘訣は然るべき時に、然るべき場所にいること」

私はこの言葉が大好きで、市長の仕事というのは、「帯広市を然るべき時に、然るべき場所にいるようにする」という事だと思います。この街が持っているポテンシャルというのは、時代が今、期待をしてくれているといいますが、時代が要求するもの。「自然と食と農」、こういうものは今世界中が要求しているものです。その資源、資産を持っている十勝・帯広がここから何にお金を使って、どんな人たちがここに集まる、そしてどんな方向に行くのかというのを、これから2年間でしっかりと外に向けて発信をしていかなければならない。それが今言いました、然るべき時に、然るべき場所になくははいけない。早くても早すぎるし、遅かったら何をやっているのかと思うので、私なりに皆さんからいただいたご支援と、サポートいただいている毎日のお気持ちをしっかりと受け止めて、然るべき時に、然るべき場所に入れる帯広にしたいなと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。